

# 『ぼくは恐竜探検家!』(J457)

小林 快次/著 講談社

数々の新発見をしてきた日本の恐竜学者小林博士。どのようにして恐竜の化石を発見するのか。そもそも恐竜学者ってどんな研究をしているのかな? この本には、化石の発くつに夢中な少年がどうやって恐竜学者になったか、どんな勉強をしたかが書かれている。2013年から北海道むかわ町で行った発くつ調査の方法もくわしく書いてあるよ。小林博士のように恐竜について知れば、新しい化石が見つけれられるかも。



## おはなしの庭

日 時: 令和5年12月26日(火)  
10:30~11:00  
内 容: 東京子ども図書館の  
浅見和子さんによるすばなし  
場 所: 中央図書館 2階  
おはなしのへや  
対 象: 5歳~小学生  
定 員: 20名程度(先着順)  
申込み: 12月12日(火) 9:30から  
中央図書館へ  
(電子申請・電話可)

## ビブリオバトル

日 時: 令和5年12月24日(日)  
令和6年 1月28日(日)  
15:00~16:00  
内 容: 1人5分間で、おすすめの本を  
紹介し合うゲーム  
場 所: 狭山台図書館 2階 視聴覚室  
対 象: 小学生以上  
申込み: 不要  
持ち物: おすすめの本1冊



# よむぞうタイムズ 87号

5年生 6年生

狭山市立図書館 2023.12.15発行

2024年の干支は辰だね。今回は「竜」の本を集めたよ。空想上の生き物であるドラゴンから、今も世界中で研究されている恐竜まで、様々な種類の竜が登場するよ。ぜひ、楽しんでね。



## 『ローワンと魔法の地図』リンの谷のローワン1 (JS0)

エミリー・ロッド/作 さくま ゆみこ/訳 佐竹 美保/絵 あすなる書房



リンの村を流れる川が止まってしまった。このままでは家畜のバクシャーが生きていけず、村人の生活も成り立たなくなる。内気な少年ローワンは村の大人たちと共に水源のある山へと登ることになるが、そこはおそろしい竜が住むと伝えられている魔の山だった。

「リンの谷のローワンシリーズ」(JS0)は全5巻あるよ。続きも読んでみてね。



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。

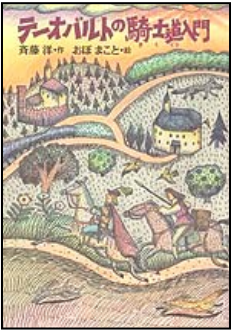
狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646  
狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801  
狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



## 『テオバルトの騎士道入門』（JDサ）

齊藤 洋／作 おぼ まこと／絵 理論社

「騎士たる者は、竜のなみだを手に入れぬかぎり、一人前とは言えぬ。」『騎士道入門』の言葉をすっかり信じているテオバルトは、竜のなみだを手に入れるまでは男爵である祖父の跡をつがいないと言い出した。竜なんているはずがないのに。こまった男爵は孫に竜のはりぼてを退治させる計画をたてた。テオバルトは竜退治の旅に出発。家来のハンスとの珍道中が始まる。



## 『おふろのなかからモンスター』（JSキ）

ディック・キング＝スミス／作 金原 瑞人／訳  
はた こうしろう／絵 講談社

海岸で宝さがしをしていたカースティは浜で変なものを見つけた。ピクピク動いているし、きっと海の生き物のたまごかもしれない。夜、お母さんに見つからないようにおふろに入れてみると、そこから生まれたのは恐竜の赤ちゃん。おじいちゃんは水馬とよんでいた。新しい家族になった水馬はどんどん大きくなっていき、とうとう庭の池にも入らなくなってしまった。

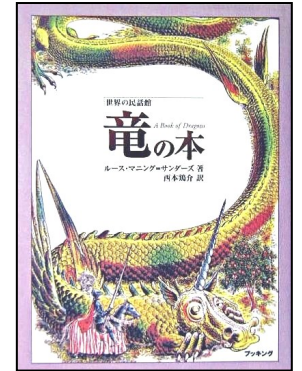


## 『竜の本』（JAマ）

ルース・マニング＝サンダーズ／編著  
西本 鶏介／訳 ブッキング

「竜」と聞いたらどんなすがたを思いうかべるかな？ ギリシア・中国・マケドニアなどの世界に竜が出てくる話があるよ。いろいろな竜が登場するけど、君がイメージした竜の話はあったかな。

「世界の民話館シリーズ」  
（JAマ）は全10巻あるよ。  
他の本も読んでみてね。



## 『ヤンメイズとりゅう』中国の昔話（EJタ）

松居 直／再話 関野 喜久子／再話 譚 小勇／絵  
福音館書店

母がやまももの実を食べたことから生まれた少年、ヤンメイズ。母と二人で暮らしていた。ある時ヤンメイズは、自分には姉がいて、恐ろしい竜にさらわれていたことを知る。姉は“自分を助け出せるのは弟だけ”という言葉を残したという。姉さんを助けに行くヤンメイズの物語。



## 『ダーウィンのドラゴン』（JSガ）

リンゼイ・ガルピン／作 千葉 茂樹／訳  
小学館

チャールズ・ダーウィンの助手として、ガラパゴス諸島までいったシムズ・コビットン。調査中にあらしにあい、海に投げ出され火山島に一人打ち上げられてしまった。空飛び巨大生物やマグマがおそってくるが、島に住む緑色のトカゲと一緒に何とかにげ出す。コビットンはダーウィンに再び会えるのか。火山島から救い出した、たからものとは何か。



## 『ウォーターハウス・ホーキンスの恐竜』（EEセ）

バーバラ・ケアリー／文  
ブライアン・セルズニック／絵 千葉 茂樹／訳  
光村教育図書

現在、恐竜の研究は世界中で進められている。けれど19世紀ロンドンで、まだ発見された化石の数も少なく、科学者でさえ恐竜のすがたを知らなかった時代に、実物大の恐竜の模型を作った男がいた。その名はウォーターハウス・ホーキンス。かれの模型が多くの人々に古代生物たちとの出会いをもたらしていく。

